

令和8年度第2回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和8年(2026年)5月26日(火) 午後1時30分～午後4時05分

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室

出席者 協議会委員

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員

【市民委員】

公募市民:小川委員、小松原委員、新井委員

市民団体:関口委員、小野寺委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

新野委員、多治見委員、津嶋委員(本人欠席のため代理出席)

【環境政策課長】

成澤委員

【施設課長】

井上委員

事務局

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、志村係長、土屋主事

欠席者 協議会委員

【市民委員】

公募市民:清水委員

学生:興津委員、鈴木委員、田中委員、五味委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、内田委員

傍聴者 あり(1名)

次第

- 1.開会
- 2.【現場視察】組成分析調査の見学
- 3.議事
- 4.その他
- 5.閉会

■主な内容

<協議会>

1. 開会

- ・開会のご挨拶（日野市）

2. 【現場視察】組成分析調査の見学

- ・プラスチック類ごみの組成分析調査を見学

3. 議事

事務局より説明。

① 前回議事の確認

（質疑応答）

事務局：前回の協議会にて、組成分析調査において、「資源化できるごみ」と「資源化できないごみ」はどのように分類するのか、という質問をいただいた。組成分析調査では、汚れの有無についても分類し、洗えば汚れが落ちるものは「資源化できるごみ」、土などがついているものや劣化が激しいものは「資源化できないごみ」としている。

A 委員：例えば、容器包装リサイクル協会の分別基準と整合を図るなど、プラスチック類の分類に関する基準をより明確にしてほしい。

事務局：組成分析調査において、分別区分の判断に迷う項目については、日野市のごみ分別区分を確認した上で分類している。容器包装リサイクル協会の分別基準を市民に求めることは、負担が大きく、困難と考えられる。市民には市が定めた排出ルールに従って分別していただき、収集以降は行政の責任で行うといった役割分担を図ることが望ましいと考える。

② ごみ処理の現状について

（質疑応答）

B 委員：ごみ処理経費を含む現状を鑑みて、日野市のごみ処理行政は、他自治体と比べ、健全に行われていると考えて問題ないか。一般的に、人口の増加に伴い、一人一日あたりごみ排出量も増加する傾向にあると考えられるが、今後の人口増加を見据え、対策すべきことはあれば見解を伺いたい。

事務局：ごみ処理行政の健全度については、今回提示したごみ処理経費の整理のみでは判断できない。日野市では導入していないが、環境省が推奨する「一般廃棄物会計基準」というものがある。これを活用することで、ごみ処理事業におけるコスト分析や費用対効果を把握でき、健全度評価も可能となる。他自治体との比較については、自治体によって、ごみの分別区分や保有する施設の種類や処理能力等が異なるため、単純比較はできない。

会長：他自治体との比較については、同じ“可燃ごみ”という分別区分であっても対象に含めるごみが異なったり、地域特性も異なったりするため、一概に比較できない。一般廃棄物会計基準は、国は推奨しているが、職員の事務負担が大きいと、導入については慎重に検討する必要がある。

A 委員：人口規模の大きい自治体においてごみ排出量が多くなる要因は、人口に比例して、事業所数が多いことが影響していると考えられる。

会長：1人1日あたりごみ排出量は、家庭系ごみと事業系ごみを合算した指標となっている。小野寺委員のご指摘どおり、人口に伴って事業所数も増加するため、ごみ排出量も多くなると考えられる。

③ 第3次日野市ごみゼロプラン改定プランの実施状況について

④ アンケート調査の実施概要

・グループワーク「ごみに関するアンケート調査について」

(1). 概要説明

(2). グループワーク

(3). 発表

(4). 講評

4. その他

次回(第3回)協議会の開催:8月上旬開催予定

5. 閉会